

〈小中学生クラス修了生の進路調査報告書抄録〉

1. 調査の概要

(1) 調査対象

・ 32期（1991年2月退所）から40期（1993年10月退所）までの子供クラス修了者87人。なお所沢センターにおける子供クラスの児童生徒とは、以下4つの条件のいずれかにあてはまる者をさす。

- ① 6才から15才までで、日本の小中学校学齢期にあたる者
- ② 16、17才で中国での学歴が中学校卒に満たない者
- ③ 16、17才で中国での学歴が中学校卒を満たしているが、高校進学を目指しているために、強く中学校編入を希望する者
- ④ 18才以上ではあるが、中国での学歴が中学校卒に満たず、なおかつ強く中学校編入を希望する者

・ 調査対象の特徴

日本の児童生徒の学齢と比較すると、学歴の低さがあげられる。日本の学齢を基準にして、中学生相当の年齢（12～14歳）の者30人のうち小学校を卒業していない者15人、高校生相当の年齢（15～18歳）49人のうち中学校を卒業していない者34人である（表1）。

表1 「日本の学齢に対応した学齢層と中国での学歴」（単位：人）

入所時年齢-学歴	小未卒	小卒	中未卒	中卒	高/専	計
6～11歳	8	—	—	—	—	8
12～14歳	15	2	12	1	—	30
15～18歳	2	3	29	9	6	49
合計	25	5	41	10	6	87

※表中の「専」は専門高校を指す

また、日本の児童生徒は概ね同学年、同年齢であるが調査対象は学齢超過の傾向にある。日本の児童生徒と比較すると、最小で1.4歳、最大では3.3歳もの年齢差がある（表2）。

表2 「学歴別平均年齢と日本の学齢」（単位：才）

中国の学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	中卒	高/専1	高/専2
(平均年齢)	6.0	8.5	11.0	10.5	12.9	14.3	15.1	15.4	16.1	16.4	16.8	18.0
日本の生徒	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0	13.0	14.0	15.0	15.0	16.0
年齢差	0	1.5	3.0	1.5	2.9	3.3	3.1	2.4	2.1	1.4	1.8	2.0

(2) 調査方法

始めに、退所直後に寄せられた、手紙・はがき・電話等による近況報告から情報収集を行い、74人の情報を得た。次に、近況報告が得られなかった13人については、退所直後の進路について、往復葉書を使用した質問紙記入法を用いた。

2. データの分析と考察

(1) データ分析の方法

分析したデータの変数は、以下の6点である。

入所時および退所時の年齢/中国での学歴/定着地/退所直後の進路/学校編入月/学校編入後中学校或いは高校を卒業した者については卒業後の進路

上記変数に日本の学齢を当てはめることで数値化し集計処理を行った。すなわち、「小学1年」は「6」、「中学1年」は「12」、「高1」は「15」と数値化した。中国での学歴で、「卒業」や「修了」の者については「0.5」ポイント加えて処理した。

(2) 進路状況の概要

表3 「退所時希望と実際の進路」 (単位：人)

退所時希望	(合計)	高校編入	小中編入	不可	日語	就職
小中編入	79	1	71	7		
日本語学習	1	1				
希望があいまいな者	6		2	1	2	1
その他 ※	1				1	
合計	87	1	73	8	4	1

※発達上の問題を抱えていた生徒

対象の定着地は東京都と周辺3県(埼玉・神奈川・千葉)で6割強を占めている。東京では定着した者24人のうち、学校編入を希望した者21人は全員編入を果たしている(表4)。

表4 「定着都道府県と退所直後の進路」 (単位：人)

定着地	東京都	埼玉県	神奈川県	愛知県	長野県	千葉県	秋田県	兵庫県	京都府	栃木県	北海道	岩手県	宮城県	静岡県	大阪府	高知県	福岡県
人数	24	14	13	9	5	4	4	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1
小中高編入	21	11	11	8	5	3	4	3	2	2	1			1		1	1
編入不可		3	2	1				1							1		
日語	3					1											
就職												1					

退所時の希望があいまいだった者6人とその他の1人については進路決定の過程が不明確であることから、本稿での分析データからは除外し、小中学校編入を希望した者79人について考察。

編入状況の分析の観点は、以下の2点である

- ① 学校編入を希望したにもかかわらず編入不可とされた7人の持つ条件と編入された72名の条件との比較
- ② 小中高校に編入した72人の年齢、学歴、センターの退所の時期による条件の違いと編入学年の比較

(3) まとめ

- ① 16歳以上で中学校を卒業している場合、中学に編入できた者は半数であり、高校編入になるとわずか1名である。そして、中学校に編入された者は中学校を中退した者1人を除いて、全員が全日制の高校に進学しており、不可になった者は二次センター経過後、定時制高校に進学している。
- ② 年齢が高くなり、年齢と学歴が6学年差になると中学編入は難しい。5学年差の場合中学校に編入されているが、卒業後は就職する者もあり、進学は定時制高校が多い。
- ③ 前例からみて、年齢や学歴の条件でされて当然と思われる者が編入不可とされることがある。
- ④ 中学校に編入されても学校を中退し、進学コースから離れたコースにのる者がいる。
- ⑤ 同級生との年齢差は中学編入者になると大きくなっており「3」「4」歳差のある者が増える。
- ⑥ 中国での学歴と編入した学年の差は、小学校低学年への編入者はほぼ同学年に編入しているのに対して、高学年では1学年上に編入し、中学編入者は±2年の範囲で編入する傾向がある。
- ⑦ 2月退所者は中3に編入されることはなく、四分の一の者が新学期に編入されてい

る。